

留學生活の一日

1. はじめに

留學生活が始まって早くも二か月が経った。5月に入り3、4月に比べると一気に気温が上がったように感じる。しかし昨日冬服のセーターを着ていたと思えば、次の日は半袖を着るなど気温の変化も激しい。このように気候の変化を感じながら過ごしてきたこの二か月間。毎日が新しい発見の連続で非常に充実している。

さて、毎月レポートを書くにあたって中国への留學に興味ある人は何が知りたいのかを考えたときに、やはり一番は日常の生活について知りたいのではないかと思う。そこで今回は、留學生活の一日がどのようなものなのか、実際に授業はついていけるのか、そして生活するうえで欠かせない食生活の3点について述べようと思う。

2. 留學生活の一日

はじめの一か月は忙しくて安定しない生活を送っていたが、二か月经ち生活にも慣れてきて安定してきた。そこでここでは、平日のある日の私の一日を紹介したいと思う。

7:15	起床	
8:00~12:00	授業	
12:15	昼食	
13:00	買い物	日用品や食料品などを買いに行く。
14:00	宿題、予習復習	中国人の友達と日本語、中国語を教え合いながら勉強することもある。
16:00	自由時間	卓球やバドミントンをしたり散歩をしたり、時には昼寝をしたりしている。
18:00	夕食	
20:30	自由時間	勉強や中国の映画・動画を見たり、個人で自由な時間を過ごしたりしている。
23:00	就寝	

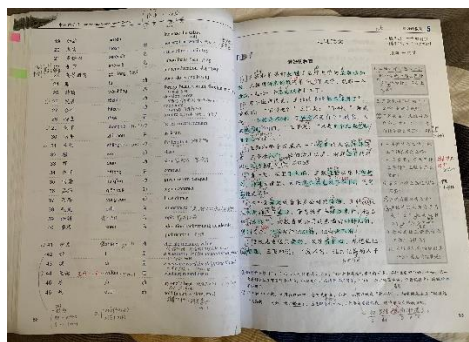
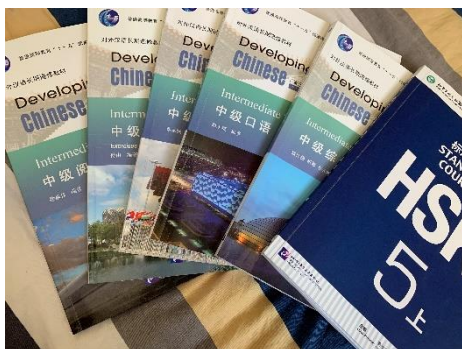
これを見てわかるように授業は午前中で終わるため私たち留學生にはたくさんの自由時間がある。どう過ごすかは個人の自由だが、私の場合、初めの一か月は次の日の宿題や予習が多い日は勉強だけで終わってしまう日もあった。しかし今は勉強だけではなく、時間がある日はスポーツをしたり留學生や中国人の学生とお話をするなど日々充実した生活を送ることができている。これからは自分の興味のあることを見つけてそれに時間を費やしていきたい。

3. 授業について

最初にクラス分けするためにテストと面接を受けた。これは難しくないので、構えなくてもよい。クラスはA、B、C班に分かれており私は一番上級のA班で授業を受けている。テストで分けられても自分で合わないと思えばクラスを変更することもできる。中国語の授業は朝8時から12時までで1日2科目ずつあり、漢語総合、漢語閲読、漢語口語、漢語聴力、漢語写作、HSK 輔導（5級）の6教科の授業を受けている。一から中国語を勉強する留学生も多く、彼らはC班でピンインから勉強している。またどのクラスも少人数で学生のスピードに合わせた授業である。そのためどのレベルでも安心して中国語を学ぶことができる環境である。

A班は7人という少人数で、中級レベルの教科書を使用している。もちろん授業は日本とは異なり、すべて中国語で行われ、多くの新しい単語や日常的な会話からHSKに出てくるような長文など、非常に濃密な内容となっている。日本人は漢字を書くこともでき漢字から大体の意味を理解できるためリーディングやライティングは比較的得意である。しかし反対にリスニングやスピーキングが苦手なようだ。私もその傾向がありリスニングとスピーキングには大変苦戦している。初めは授業の内容すら理解できずついていくのに必死で予習復習がかかせなかった。しかし不思議なもので今では耳も慣れて授業の内容も理解できるようになった。

現地にいると日本にいるときよりも新しい言葉や単語が頭に入ってきやすいように感じる。授業中の何気ない会話から出てくる単語や、買い物や飲食店で聞こえてくる単語などすべてが中国語を学習する環境であり自然と頭に入ってくる。そしてその場ですぐに使うことができる。授業についていけないか不安に感じている人も語学力に自信がない人も最初は不安でも、後々その不安は消えていくだろう。



実際に使っている教科書

4. 食生活について

留学生活をするうえで欠かせない問題、食生活について述べる。留学を考えている人も留学をしている人も食生活については誰もが抱える悩みではないだろうか。私は日本食が大好きで海外の食が自分に合わないことを自覚している。そのため一年の留学で一番苦しいのは日本食を食べることができないことである。

中国料理はとにかく油が多く、辛く、生野菜と生魚を食べることができない。日本でも

中華料理を食べることはできるが中国に来て全く別物であるということが分かった。一時期中国料理に飽きてしまいオムライスを作るなど自炊をした時もあった。しかしやはり学食や飲食店で食べたほうが便利で安いので自炊をすることはほとんどなくなった。そして今では中国料理を好むようになった。そこでこのレポートで学食や学校の近くの飲食店で私が普段食べているものをたくさん紹介し、少しでも中国料理に興味を持ってもらいたい。

(1) 学食

学校内には三つの学食がありその他にも個人のお店やレストラン、持ち帰りできるような小さい店が沢山ある。昼休憩と夕方の休憩に入るとこの学食には本科生で埋め尽くされるため私たちも時間を考えて行動をしている。



私たちが良く利用している食堂

学食内では一食が4元（約72円）～8元（約144円）であり、非常に安く食べることができる。本科生は忙しいため持ち帰る人も多く、またほとんどの料理を持ち帰ることができる。麺もそのままビニールに入れられ持ち帰ることができるのには驚いた。また人も多いため回転率が速い気がする。快餐という主食に米か饅頭（マントウ）かを選んで多くあるおかずの中から好きなものを選ぶというスタイルが学食には多くある。これはできたおかずを店員さんがついでくれるだけのため料理の準備がとても早く、忙しい学生が多く利用している。



小籠包 4元



快餐



水餃子



快餐



カレーライス 6元



香辣肉沫麵 7元

(2) 学校の近くの飲食店

曲阜師範大学には東西南北それぞれに門があり東門と北門を出るとたくさんのお店が並んでいる。なお門の外は車、バイク、自転車などが多く歩行者が優先ということはずないので気を付けなければならない。門外には様々な飲食店があり中国料理はもちろん日本食店からイスラム料理店までさまざまな飲食店が並んでいる。また屋台のようなものも夜になるとたくさん出てくる。私もまだあまり挑戦したことはないが非常に安く買うことができる。



北門の外



東門の外



日本料理屋で食べたかつ定食



火鍋



西紅柿炒鳥蛋など（トマトと卵の炒め物）



油潑麵 (油麵のようなもの)



麻辣湯



ラップサンド (サンドイッチのようなもの)

5. おわりに

今回のレポートでは私の留学生活について紹介した。文面だけではなかなか伝わらないと思うが、このレポートを見てぜひ中国での留学生活がどのようなものなのかイメージしてみてください。そして少しでも興味を持ってもらえたら嬉しい。

もう少しで中間テストがやってくる。勉強が続く毎日だがこの一年間の留学生生活を後悔しないように過ごしたい。